

3.7 市民団体意向調査

アイデアのひろばにおける市民参加・交流活動の機能整備に向け、NPOなどの市民団体に対して、活動に必要な要素についてのアンケート及びヒアリング調査を実施した。調査結果概要は以下のとおりである。

(1) 調査結果概要

- 回答を得られた団体数 : 116 団体中 46 団体 (回答率 40%)
(以下、回答団体を母数として計上)
- 団体の所在地 : 愛知県内が約 7 割、東海地方を含めると約 8 割
- 団体の活動対象 : 環境保全が約 3 割で最も多い
- 愛・地球博への参加団体 : 約 9 割の団体が参加
- 本公園での活動参加意向 : 約 8 割の団体が「関心あり」と回答
- 希望条件
 - ・ソフト面 : 「活動内容の広報と参加者の確保」、「NPO などが自立組織として意見交換して改善しながら運営するしくみ」など
 - ・ハード面 : 「屋根付の大空間」や「舞台装置・音響・照明」や「椅子や机」など

(2) 調査結果内容

①アンケート及びヒアリング調査実施団体

- ・対象とする市民団体は以下の条件で選出し、116 の団体にアンケート（郵送）及びヒアリングを実施した。

【調査依頼団体】

- ・愛・地球博 長久手会場において、「地球市民村」に参加した団体のうち、「環境」、「ボランティア」、「森づくり」、「子ども」に関連する分野で活動している団体
- ・愛・地球博 瀬戸会場において、市民プロジェクトに参加した団体のうち、県内及びにその周辺に拠点のある団体
- ・これまでの愛知県の公園・緑化関係のイベントに参加実績のある団体

②調査期間

- ・平成 18 年 8 月～9 月

③調査結果データ

1) 調査団体

- ・調査を依頼した 116 団体の内、下記に示す 46 団体から回答が得られた。(回答率約 40%)

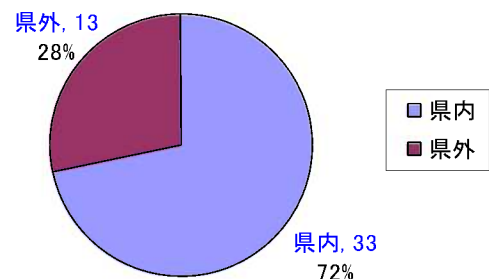
【調査回答を得た団体名】

おかざき匠の会、ドングリの会、NPO 法人子どもの虐待防止ネットワーク・あいち、エコプラットフォーム東海、中部リサイクル運動市民の会、ソムニード、愛・地球博ボランティアセンター設立準備会、NPO 法人どんぐりモンゴリ、インタープリターズ・ユニット森あそび本舗、エコアクションニュース、ネイチャークラブ東海、こどもNPO、愛知県オリエンテーリング協会、環境市民（受託団体は環境市民・東海）、福祉工房あいち、漂流日記研究所、NPO 法人「とき」を祝う祭り、モリゾーキョコと環境活動を推進する会、NPO 法人まちの縁側育くみ隊、三河湾浄化市民塾、ライスブランケット、響け！心の音 届け！魂の鼓動、ケナフの会・ケナフネットワーク、藁の家倶楽部（草の文化・藁の家プロジェクト）、NPO わくわく体験隊、NPO オカリーナ WAVE 財団法人たんぽぽの家、NPO マイビジョン、シャプラニール＝市民による海外協力の会、石川県くらしと環境を考える会、日本国際飢餓対策機構、NPO 法人 Expo Web TV、こども造形教室アトリエリブル、お茶応援団、国際資源活用協会、里山ルネッサンス、国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター、Dance Work こかち・オープンセサミ、ブラザー工業（株）広報総務部、名古屋市水辺研究会、地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）森づくりフォーラム、愛・地球博市民プロジェクト実行委員会、（社）北海道ウタリ協会釧路支部、瀬戸子供太鼓こまいぬ座、心のアラスカ実行委員会

2) 調査団体の属性（全 46 団体）

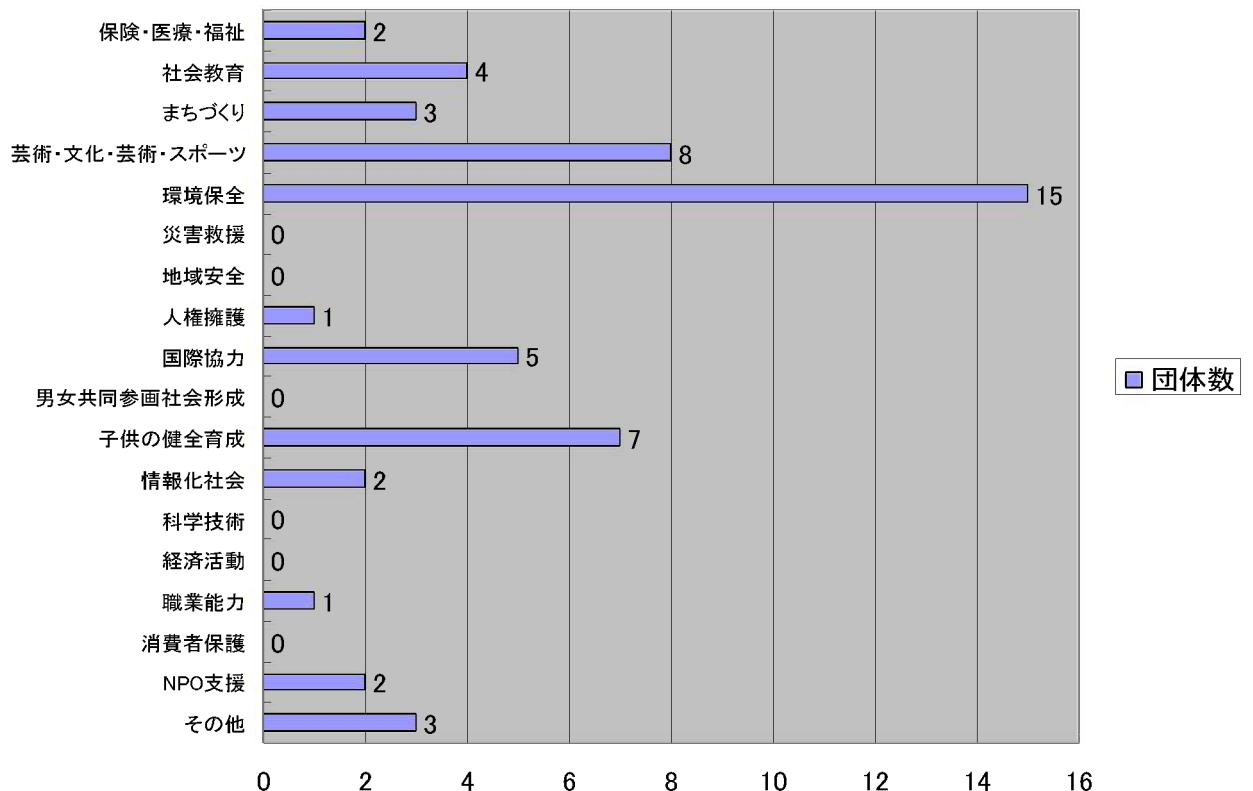
●団体の所在地

- ・愛知県内が約 7 割を占めている。静岡・岐阜三重を含めると約 8 割を占めている。



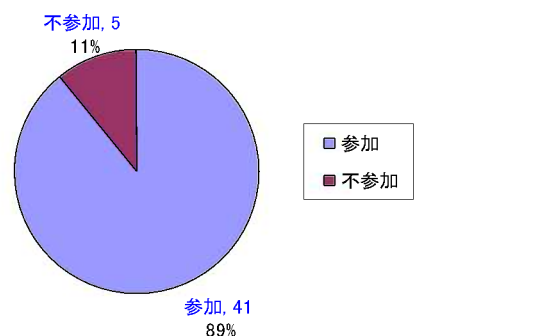
●活動の種類（重複回答）

- ・環境保全を活動対象とした団体が多い。



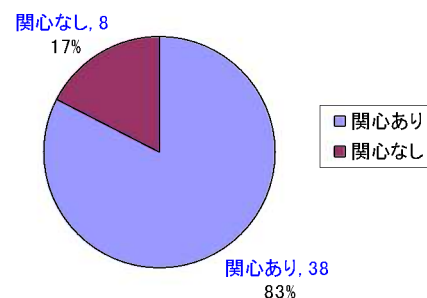
3) 愛・地球博への参加状況

- ・約9割の団体が愛・地球博に参加した団体である。



4) 愛・地球博記念公園での活動の関心の有無

- ・約8割の団体が「関心あり」と回答した。



5) アイデアの広場での活動に対する要望や条件（複数回答）

●ソフト面

- ・ソフト面での要望や参加の条件として、「活動内容の広報と参加者の確保への協力」や「NPOなどが意見交換しながら運営するしくみづくり」などがあげられている。

項 目	件数
運営	27
活動内容等の広報と参加者の確保への協力	8
NPOなどが意見交換しながら運営するしくみづくり	6
企業、周辺大学等の他、小中学校、保育園・幼稚園、周辺市町村との連携	3
NPOからのアイデア提案により、行政と一緒に活動するスタイル	2
計画段階からの市民参画に配慮した運営づくり	1
中部地区の中心的な活動場所としての位置付け	1
参加するNPO団体が相互に協力できる共有の仕組み（人材バンクなど）	1
リピーターを増やす活動	1
充実した安全管理体制を望む	1
自主イベントの有料化	1
コーディネーター機能の配置	1
施設利用の公平性確保	1
プログラム	9
各種イベントの開催	5
いつ来ても楽しめる展示やプログラム整備	3
県民参加のイベント等を開催し、博覧会の理念を継承する場としたい	1
人材	4
ボランティアを活用したガイドなどスタッフの養成・運営	2
小中学生や高校生がスタッフとして参加できるシステム	2
その他	8
費用補助に関して	7
出展者に対する基金創出	1

●ハード面についての必要な要素（複数回答）

- ・ハード面では、「屋根付の大空間」や「舞台装置・音響・照明」や「椅子や机」などが条件としてあげられている。

項 目	件数
場所の条件	27
大勢が集まれる屋根付きの空間・施設	6
雨が降っても使用可能な大きな空間	6
ユニバーサルな施設（スロープ、トイレ、通路幅員等）	3
フレキシブルな活動空間	3
くつろげる場所	3
風や砂が入らない場所	2
苗木づくりのフィールド	1
クラフトワークができる場所	1
土足エリアと土足禁止エリア	1
安全性と冒険性のバランスのとれた施設	1
設備	54
舞台（ステージ）、楽屋、照明施設、音響施設	16
椅子や机	8
水道・洗い場	6
スクリーン・プロジェクター	4
展示機能	4
IT設備	3
インフォメーション機能	2
自然エネルギー発電施設、雨水利用施設等	2
電源	2
放送施設	1
参加者の休憩施設や駐車場	1
荷重に耐えられる床（2t/m ² 程度）	1
コージェネレーションシステム、バイオマスエネルギー等の導入	1
排水設備	1
スタジオ	1
ガス	1

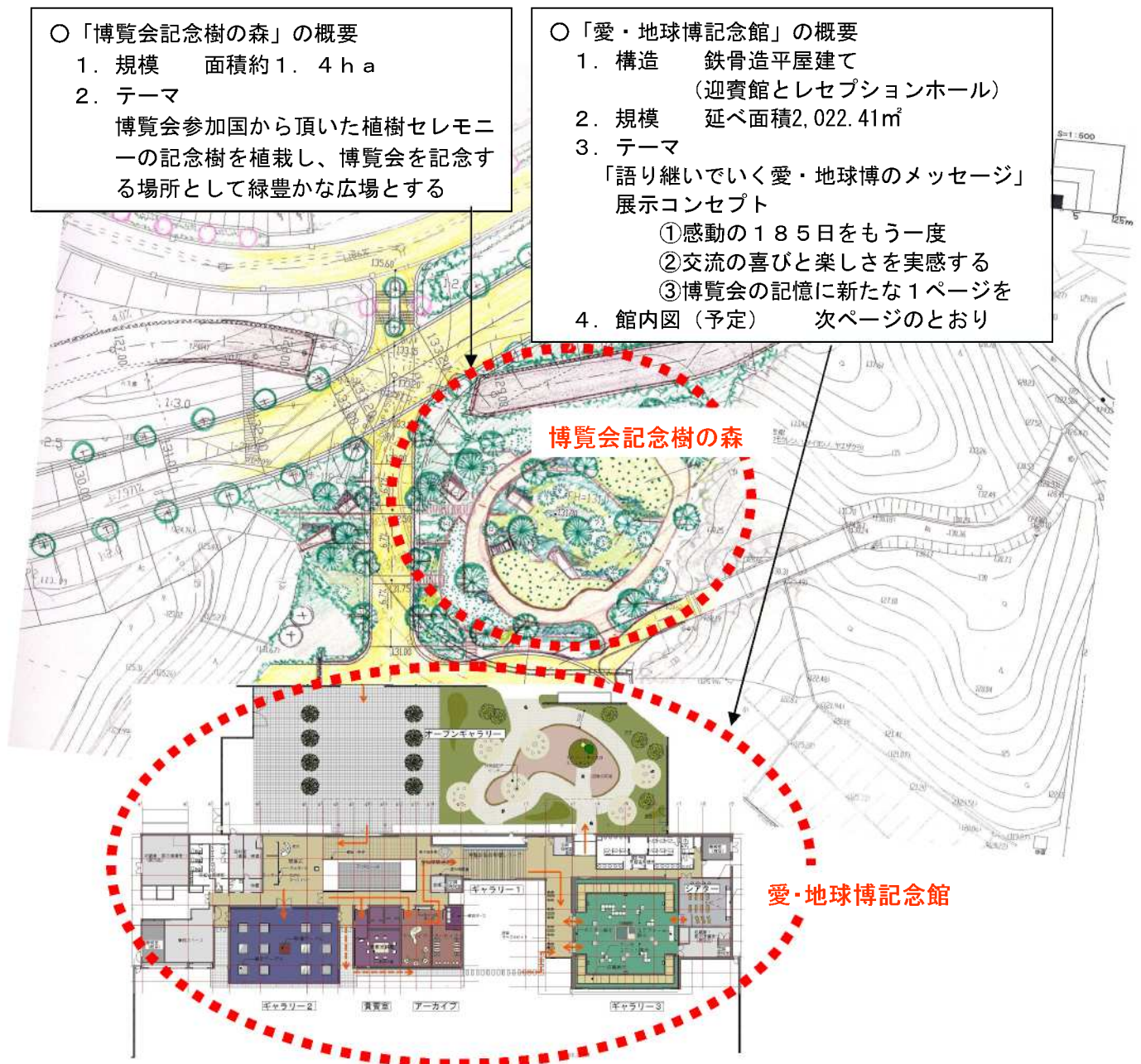
項 目	件数
その他	16
ロッカールーム（30個以上）、更衣室	3
倉庫・資材保管	3
雑木林、自然の野外活動スペース	3
宿泊施設・キャンプ場	3
文具、工具等の道具	2
自然素材の材料を使用	1
記念品等の販売スペース	1
活動スペースの規模	11
20m ² 程度	4
50m ² 程度	1
100m ²	1
400m ²	1
3000m ²	1
1ha以上	1
30～50名収容できるスペース	1
300～500名収容	1

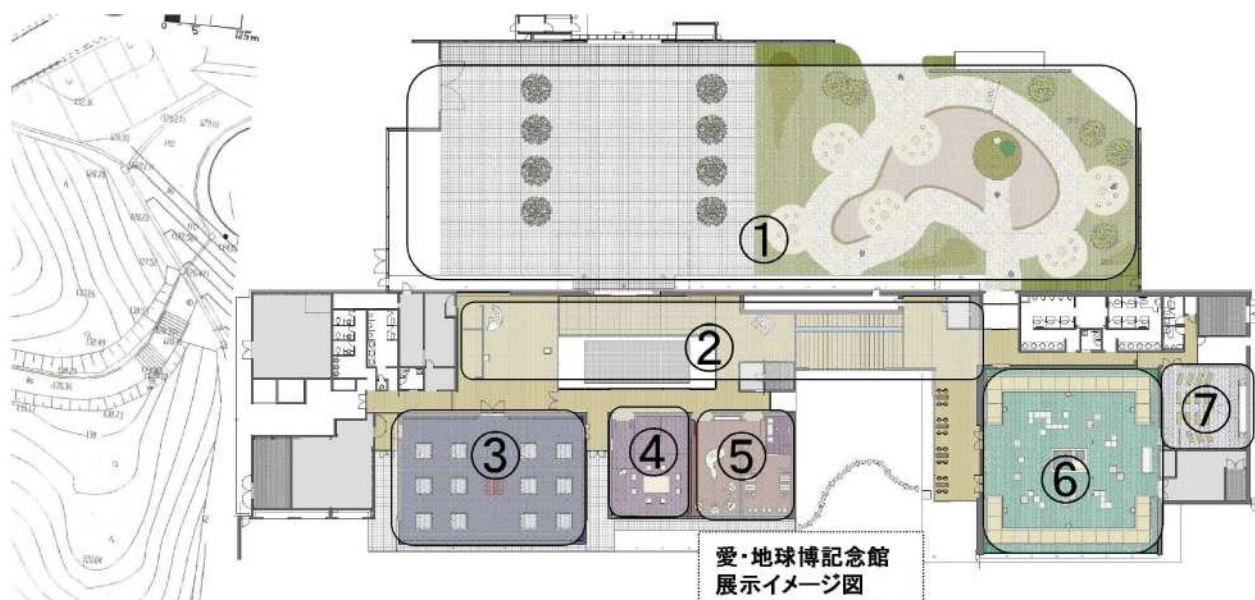
3. 8 記念ゾーン計画案

(1) 記念ゾーンの施設計画

- ・「記念ゾーン」には、人々の記憶に刻まれた博覧会の記憶を呼び起こし、語り伝え、未来につなげていくよう「博覧会記念樹の森」と「愛・地球博記念館」を整備する。
- ・「テーマゾーン」の「フレンドシップ広場」と連携し、博覧会の理念と成果を継承した空間として整備する。
- ・エリア配置及び誘導動線は、「博覧会記念樹の森」や「フレンドシップ広場」を通り、博覧会の記憶を想起させながら、「愛・地球博記念館」へと向かう。
- ・各施設の基本概要等は図のとおり。

■記念ゾーン平面図





①	オープンギャラリー (記念館北側アプローチ部分)	入口側はそのままのたたずまいを残し、出口側には、グローバルループのかたちをした園路を設けます。
②	ギャラリー1 (連結空間部分(新設))	愛・地球博の開幕から閉幕までの185日間を振り返ります。また、唐子指南車など愛知県関連の展示や、博覧会協会寄贈のレリーフがあります。
③	ギャラリー2 (旧迎賓館部分)	迎賓館の持つ厳かな雰囲気を活かしたギャラリーです。各国からの寄贈品等を、共通のテーマごとに展示します。
④	貴賓室 (旧迎賓館応接)	皇族や世界の賓客に使用された貴賓室を保存・公開します。
⑤	アーカイブ (旧迎賓館応接)	愛・地球博に関する情報や、寄贈品のデータなどを検索できます。 「モリゾー・キッコロ100の世界」を展示する。
⑥	ギャラリー3 (旧レセプションホール)	ギャラリーを囲うようにグローバルコモン単位に寄贈品を展示し、室内を一周することでグローバルループを一周できます。 また、博覧会会場の模型や博覧会で目にしたものを展示し、博覧会の臨場感を出します。
⑦	シアター (旧レセプションホール厨房)	愛・地球博に関連した映像を見ることができる大画面の映像シアターです。

※「愛・地球博記念館」では、展示品の入れ替えなどの管理が必要となる。

3. 9 運営・管理について

「地球市民交流センター」は、愛・地球博で培われた「地球市民」を継承発展させるために情報発信・体験交流する空間である。これらの機能が最大限に発揮されるよう、運営・管理を先駆的に取り組んでいく。

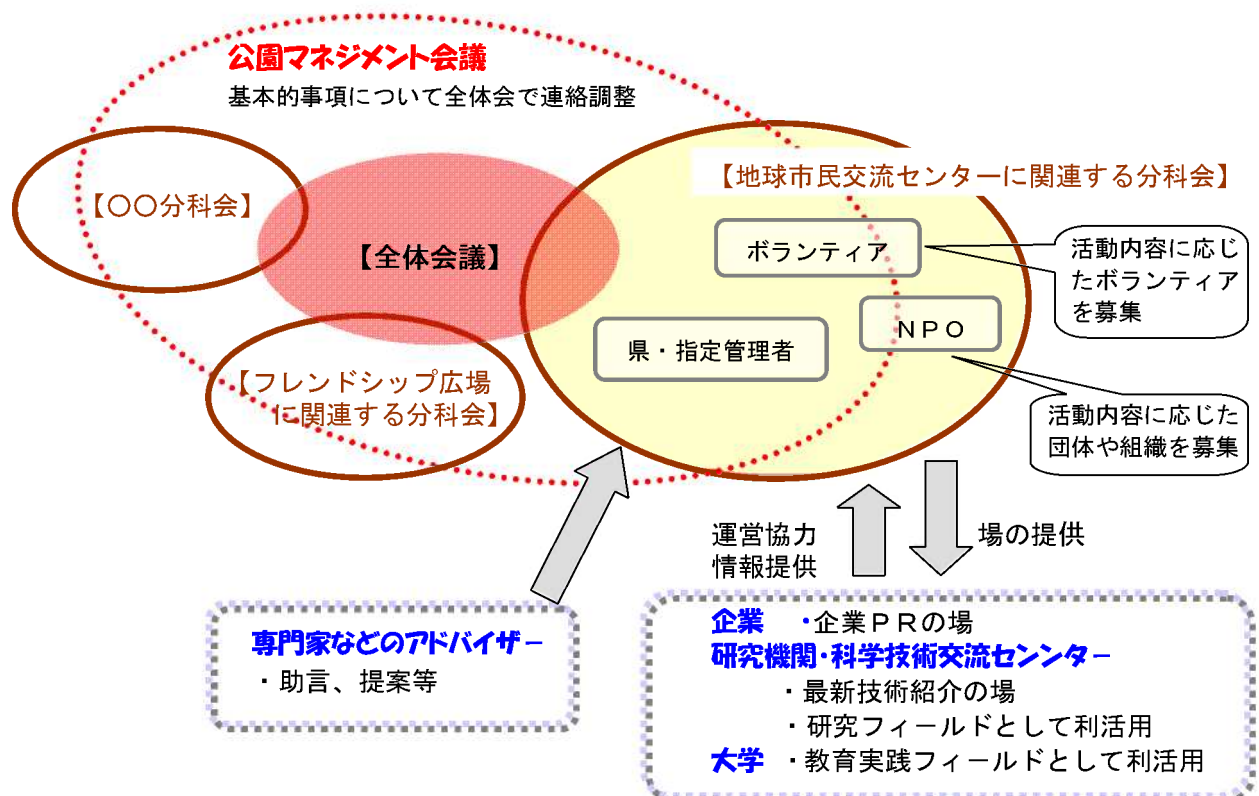
(1) 地球市民交流センターの運営・管理体制

- ・地球市民交流センターの施設管理は県と指定管理者で行う。
- ・運営については、県と指定管理者を中心に、ボランティア・NPOなどと協力しながら行う。
- ・企業や研究機関、大学との連携や、専門家からの助言を受けながら、円滑な運営を図る。
- ・博覧会の理念を継承する市民活動を受け入れていく場として、博覧会の理念を基盤に活動を発展させている団体や機関（博覧会協会継承団体、ボランティアセンター）等との連携を図りながら、利用形態に適合したソフト・ハードの整備を進めていく。

(2) 公園全体との関係について

- ・本公園は、公園の計画・設計・整備・管理・運営等の様々な段階において県民参加を推進し、利用者みんなで公園を育てていくことを目指しており、そのための体制として、県民と行政のパートナーシップにより構成される公園マネジメント会議による運営を計画している。地球市民交流センターやフレンドシップ広場は、公園マネジメント会議において関連する分科会と連携させ、公園全体の運営を通じて、具体的な運営を実施していくが、運営の体制やルールなどの内容については、公園全体の計画を検討している「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」にて協議する。

■地球市民交流センターの運営のイメージ



3. 10 整備に向けての課題

今後の計画の進展に伴って留意すべき事項を以下に整理する。

●楽しみながら学ぶことのできる施設展開

- ・環境に特化せず、教育と娯楽を融合させた、楽しみながら学ぶことのできる施設展開を行う。
- ・環境技術は進化するため、飽きさせない展示の工夫を行う。
- ・参加意識を高めるため、建設プロセスを見学できるしくみを検討する。

●魅力的な空間づくり

- ・空間自体に日常からの浮遊感を与えるなど、イベントが開催されていない通常の場合でも魅力的な場所となるようハード・ソフト両面から配慮していく。
- ・県内NPOだけでなく、全国あるいは国際的な観点から世界と連携できる整備を行う。

●わかりやすく親しまれる愛称の設定

- ・子どもからお年寄りまでに親しまれ、かつ、本事業をわかりやすく表現する愛称をつける。本事業への関心を高めるため、公募による決定も方法の1つである。実施時期は、工事着手後など効果的な時期に実施する。

●利用者からの視点を持った設計、運営

- ・利活用イメージの明確化など、常に利用者からの視点を持ちながら設計、運営を行う。

●ソフト展開の検討

- ・公園の利活用の方法やイベント企画など、本エリアで実際に展開するソフトの内容は、施設整備と平行して検討する。
- ・市民協働の有効性と限界性を念頭において、行政の責任を明確化した上で、市町村や関連機関、NPO等と連携を図っていく。運営においては、公園の活用が想定される市民団体の関心を高めていくような様々な働きかけを行う。

●モリゾー・キッコロの活用と育成

- ・愛知万博のマスコットキャラクターであり、本公園の愛称（モリコロパーク）ともなっているモリゾー・キッコロを公園キャラクターとして育て活かしていくために、公園運営の基本戦略において、モリゾー・キッコロのキャラクターを取り込んだ仕掛けを行う。このため、モリゾー・キッコロのデザインを記した公園のサインやシンボルマーク及びロゴ等の作成仕様の策定や、記念写真を撮りたくなるようなモリゾー・キッコロの像等の設置など、様々な演出を行うことを検討する。

4. 委員名簿、委員会の協議経過

「愛・地球博 理念継承エリア検討委員会」委員

(委員は五十音順)

	氏 名（敬称略）	役 職 等
委員長	ひらの しんいち 平野 眞一	国立大学法人名古屋大学総長
委員	かみお たかし 神尾 隆	社団法人中部経済連合会副会長
	こいで のぶあき 小出 宣昭	中日新聞社常務取締役 編集担当
	たかはし じろう 高橋 治朗	名古屋商工会議所副会頭
	たかはし のりゆき 高橋 則行（H18.5.26 まで）	愛知県議会議員 国際博覧会継承調査特別委員会委員長
	ふじかわ まさひと 藤川 政人（H18.5.27 から）	愛知県議会議員 建設委員会委員長
	はぎわら よしゆき 萩原 喜之	NPO中部リサイクル運動市民の会代表
	ふくい しょうへい 福井 昌平	株式会社コミュニケーション・デザインズ 研究所 代表取締役社長
	マリ・クリスティーヌ	地域・都市・まちづくり研究所代表 国連人間居住計画（ハビタット）親善大使
	もり のりお 森 徳夫（H18.3.31 まで） にしむら まこと 西村 眞（H18.4.1 から）	愛知県副知事
	わくい まさゆき 涌井 雅之	桐蔭横浜大学教授

「愛・地球博 理念継承エリア検討委員会」協議の経過

(基本構想)

第1回 平成17年11月29日

- (1) 検討委員会の運営
- (2) 検討の前提
 - ・公園計画策定の経緯
 - ・博覧会後の公園計画
 - ・アイデアのひろばの性格、展開の方向、博覧会の理念と成果の継承

第2回 平成17年12月21日

- (1) 展開内容の検討
 - ・第1回委員会意見の整理
 - ・アイデアのひろばゾーニング
 - ・テーマゾーンの展開

第3回 平成18年2月10日

- (1) 愛・地球博の理念と成果の継承（博覧会協会）
- (2) 愛・地球博記念公園の名称決定と暫定基本計画
- (3) 「アイデアのひろば」の拡大(温水プール・アイススケート場)
- (4) テーマゾーン展開内容の検討
 - ・第1, 2回委員会までの意見整理
 - ・テーマゾーンの展開

第4回 平成18年5月31日

- (1) 「アイデアのひろば」基本構想のまとめ

(基本計画)

第5回 平成18年9月13日

- (1) 「アイデアのひろば」基本計画

第6回 平成18年11月22日

- (1) 「アイデアのひろば」基本計画のまとめ